

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
レクリエーション理論 Theory of Recreation		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(レクリエーションインストラクター資格に必要な科目)	レクリエーションアクティビティ I、II を履修済みの学生
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
レクリエーションアクティビティ I、II				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
吉田 志保	福祉棟3階	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
現代の日本社会は、技術の進歩や文化の発展にともない、多くの情報や物に溢れ、選択肢も増加傾向にある。その中で生涯を有意義に過ごすことの出来ない人や、コミュニケーションを上手くとれない人もいる。これらの人にレクリエーションの持つ意味はとても重要である。この授業では、レクリエーションの歴史や重要性などについて学習するとともに、支援者としての理解を深める				
授業の目標				
①レクリエーションの歴史とその背景について理解し、説明できる。 ②支援者としてのコミュニケーションスキルについて学び、実践できる。 ③援助法についての基本的スキルを習得し、実践できる。 ④レクリエーションに関する組織について理解し、説明できる。				
授業の方法				
講義形式の授業 グループワークも行う				
学習の成果（学習成果）				
①レクリエーションとは、レジャーとはなど関連分野について説明できる。 ②支援者としてプログラムを作成することができる。 ③対象者に応じたプログラムを作成することができる。 ④レクリエーション関連の団体や活動などに貢献できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	レクリエーション概論 レクリエーション支援 レクリエーションインストラクターの2つの役割			
第2回目	楽しさと心の元気づくりの理論① レクリエーション活動からもたらされる楽しさを感じる心の仕組み			
第3回目	楽しさと心の元気づくりの理論② レクリエーション活動を心の元気づくりに活かす2つの視点			
第4回目	楽しさと心の元気づくりの理論③ ライフステージごと課題 子供や高齢者や障がいのある人の課題 地域とレクリエーション			
第5回目	レクリエーション支援の理論① レクリエーション支援におけるコミュニケーション			
第6回目	レクリエーション支援の理論② 信頼関係が築かれる心の仕組み レクリエーション活動の楽しさをとおした集団のまとめ			

第7回目	レクリエーション支援の理論③ 段階をおった成功体験をとおした集団のまとまり	
第8回目	レクリエーション支援の理論④ レクリエーション活動へのやる気の変化 成功体験を支え合う対象者の関わり	
第9回目	リスクマネジメントの方法① リスクマネジメントの基本的な考え方	
第10回目	リスクマネジメントの方法② リスクの回避と問題が生じた時の対処の方法	
第11回目	レクリエーション支援のプログラム① プログラムの立案方法の説明	
第12回目	レクリエーション支援のプログラム② プログラムの立案	
第13回目	レクリエーション支援のプログラム③ プログラムの加筆・修正 発表の練習	
第14回目	レクリエーション支援のプログラム④ プログラムの発表①	
第15回目	レクリエーション支援のプログラム⑤ プログラムの発表②	
事前・事後学習	事前学習：前の週で予告されたテキストのページを読んでおくこと 事後学習：学習した内容をテキストやプリントを用いて振り返りを行うこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	・積極的に取り組んでいる。 ・グループワークに積極的に取り組んでいる。 ・毎回の振り返りシートを基に評価する
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	語句穴埋め、選択式、記述式の小テストを行い評価する。
発表内容（態度含む）	30%	プログラム発表で評価する（プログラムの内容、発表態度）
その他		
教科書と参考図書		
日本レクリエーション協会 『楽しさをとおした心の元気づくり』～レクリエーション支援の理論と方法～ ・その他レジュメを配布する。		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験（職種：介護福祉士（高齢者に対するレクリエーション）、職歴：通算6年1ヶ月） 携帯電話、食べ物等、授業に関係のない物品の持ち込み禁止		